

日本教育経営学会

第 63 回大会プログラム

会場 筑波大学(筑波キャンパス)

〒305-8572 つくば市天王台 1-1-1

期間 2023 年 6 月 2 日(金) ～ 4 日(日)



日本教育経営学会 第 63 回大会準備委員会

主催：日本教育経営学会

後援：茨城県教育委員会、つくば市教育委員会、さいたま市教育委員会

協力：(一社)つくば観光コンベンション協会、つくば市

ご あ い さ つ

日本教育経営学会第 63 回大会 準備委員会
委員長 浜田博文（筑波大学）

日本教育経営学会第 63 回大会を、筑波大学筑波キャンパス第 2 エリアを主会場として、2023 年 6 月 2 日（金）から 4 日（日）にかけて開催いたします。今回の大会は 4 年ぶりに対面をメインとする開催になります。

大会プログラムは、会員の皆さまの研究発表の場である自由研究発表に加え、課題研究、実践研究フォーラム、若手研究者のための研究フォーラム、研究倫理に関するラウンドテーブルなどを予定しています。公開シンポジウムのテーマは、『「ウェルビーイングと教育経営の在り方」を考える—新時代の学びと子どもの発達の支援に向けて—』です。ウェルビーイングを実現するための組織運営システム、ビジョンと方略、学校に関わる人々の相互作用、実践プロセスの在り方などについて議論を深めたいと考えております。なお、課題研究、実践研究フォーラム、公開シンポジウムはオンラインでもご参加いただけます。

今年は筑波大学が開学 50 周年の年にあたります。当学では様々な記念事業が企画・実施されていますが、本大会も「創基 151 年筑波大学開学 50 周年」の記念事業の一つです。筑波研究学園都市が国家の一大プロジェクトとして建設され、本学を含む数多くの国立研究機関が現在のつくば市に設置されてから、実に 50 年余りの時間が経過しました。その間、日本の社会状況は大きく変化し、つくばの地も変貌を遂げてきました。かつては「陸の孤島」だったこの地域も、その頃と比べると交通の便が格段によくなり、街の風景も様変わりしております。開学 50 年目に本学会を対面開催できることは、会員の皆様に現在のつくばの姿を体感していただくうえでも恰好の機会になるものと思います。

東京方面から筑波大学までの主な交通手段としては、電車、高速バス、自家用車（高速道路）がございます。電車は「秋葉原」駅から「つくばエクスプレス（TX）」の快速で「つくば」駅まで 45 分です。駅からはバスまたはタクシーで「筑波大学中央」までお越し下さい。「東京」駅からは「筑波大学」行の高速バスが便利です。乗換無しで会場までお越しいただけます。自家用車の方は常磐自動車道・圏央道などを利用されると便利です。本大会は、一般社団法人つくば観光コンベンション協会の助成を受けておりますので、つくば市内のホテルにご宿泊いただければありがたく存じます。

大会準備委員一同、充実した大会になるように最善を尽くしてまいります。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

第 63 回大会プログラム目次

大会日程および会場	3
大会参加について（ご案内）	4
自由研究発表要領	7
交通案内	8
キャンパスマップ	10
会場フロアマップ（6月3日・4日）	11
第1日 6月2日（金）	
若手研究者のための研究フォーラム	13
第2日 6月3日（土）	
自由研究発表1	14
自由研究発表2	15
自由研究発表3	16
自由研究発表4	17
公開シンポジウム	18
総会、懇親会	21
第3日 6月4日（日）	
自由研究発表5	22
自由研究発表6	23
自由研究発表7	24
ラウンドテーブル	25
課題研究	26
実践研究フォーラム	27

大会日程および会場

6月2日(金)

16:30~	大会受付	人間系学系 B 棟 5 階 B523/524
17:00~19:00	若手研究者のための研究フォーラム	人間系学系 B 棟 5 階 B523/524

6月3日(土)

8:15~	大会受付	2H 棟 1 階
9:00~11:35	自由研究発表 1	2A 棟 4 階 2A409 教室
	自由研究発表 2	2A 棟 4 階 2A410 教室
	自由研究発表 3	2B 棟 5 階 2B507 教室
	自由研究発表 4	2B 棟 5 階 2B508 教室
11:35~13:00	昼食	2A 棟 4 階 2A409 教室・2A410 教室
		2A 棟 2 階 2A215(大会議室)
13:00~16:00	公開シンポジウム (*)	2H 棟 1 階 2H101 教室
16:15~17:15	総会	2H 棟 1 階 2H101 教室
17:45~19:45	懇親会	2B 棟 1 階 第 2 エリア大食堂

6月4日(日)

8:15~	大会受付	2H 棟 1 階
9:00~11:35	自由研究発表 5	2A 棟 3 階 2A309 教室
	自由研究発表 6	2A 棟 4 階 2A409 教室
	自由研究発表 7	2A 棟 4 階 2A410 教室
11:35~13:00	昼食	2A 棟 4 階 2A409 教室・2A410 教室
		2A 棟 2 階 2A215(大会議室)
11:50~12:50	ラウンドテーブル	2A 棟 3 階 2A309 教室
13:00~16:00	課題研究 (*)	2H 棟 2 階 2H201 教室
13:00~16:00	実践研究フォーラム (*)	2H 棟 1 階 2H101 教室

会員控室	2A 棟 2 階 2A215(大会議室)
学会事務局控室	2A 棟 2 階 2A215(大会議室)・2A208(小会議室)
大会準備委員会本部	2A 棟 2 階 2A215(大会議室)・2A208(小会議室)
公開シンポジウム打ち合わせ	2A 棟 2 階 2A214(中会議室)
課題研究打ち合わせ	2A 棟 4 階 2A407 教室
実践研究フォーラム打ち合わせ	2A 棟 4 階 2A408 教室

(*)・・・対面に加え、オンラインでも配信いたします。

大会参加について(ご案内)

1. 参加申込の手順

(1)大会参加申込

大会に参加される方は、下記の参加登録用のフォームで、**5月29日(月)まで**にお申し込みください。参加費（懇親会費、お弁当を含む）は申込時にお支払いいただく形となります。なお、お支払い方法はクレジットカード決済のみとなりますので、ご了承ください。

◆参加登録用フォーム：https://app.payvent.net/embedded_forms/show/6434c744e4e22b3f12d3642e

◆QR コードはこちら：



※参加登録用フォームにおける注意事項（必ずお読みください）：

- ・参加登録完了後の登録内容の変更や追加でのお申し込み（懇親会、お弁当を含む）、また変更に伴う返金などはいたしかねますので、ご了承ください。
- ・正会員の方であっても、システムの設定上、「公開シンポジウムのみ」を選択できますが、正会員の方は、公開シンポジウムのみ参加であっても、通常の参加費と同様となります。（別途、差額分を追加でお支払いいただきます。）

なお、正会員の方で、総会ご欠席の方は、以下の委任状提出用のフォームにアクセスして事前に「委任状」をご提出ください（総会のオンライン配信はいたしませんのでご了承ください）。

◆総会委任状フォーム：<https://forms.gle/rkrfC3kDr8SeCwUo8> ※21 頁に QR コードもございます。

(2)参加費・懇親会費について

大会の参加費、懇親会費は以下の通りです。

大会参加費 (対面)	正会員（学生除く） 臨時会員	4,000 円 ※
	学生会員（常勤の職を有さない学生に限る）	1,000 円
大会参加費 (オンライン) ※	正会員（学生除く） 臨時会員	5,000 円 ※
	学生会員（常勤の職を有さない学生に限る）	2,000 円
懇親会費	正会員（学生除く） 臨時会員	4,000 円
	学生会員（常勤の職を有さない学生に限る）	2,000 円

※ オンライン配信は、公開シンポジウム、課題研究、実践研究フォーラムのみとなります。

※ 正会員（一般・学生）以外の方については、公開シンポジウムのみご参加の場合、対面は無料、オンラインは 2,000 円となります。

2. 受付

- ・6月2日（金）：人間系学系B棟5階にて大会受付を行います。
- ・6月3日（土）・4日（日）：2H棟1階にて大会受付を行います。

※3日（土）・4日（日）は大会受付付近に学会事務局の窓口も設けますが、紀要の配布、学会費の現金での納入受付は行いません。会員管理システム・シクミネット「マイページ」から事前に納入をしてのご参加をお願いいたします。

3. 懇親会

日時：6月3日（土）17：45～19：45

会場：筑波大学 第2エリア大食堂（2B棟1階）

※懇親会費は、参加申し込み時に事前にお支払いいただく形となります（「1. 参加申込の手順」をご参照ください）。

4. 昼食

6月3日（土）・4日（日）は、両日ともに事前申し込み制でお弁当を手配いたします（1食1,000円・お茶付き）。ご希望の方は、参加申し込み時に必要事項をご記入ください。お弁当の受け渡し場所については、当日ご案内します。

お弁当を注文されなかった方は、各自で昼食のご用意をお願いします。3日（土）は11:00～13:15に第2エリア大食堂をご利用いただけますが、4日（日）は、営業しておりません。

※できるだけお弁当の予約購入をお願いいたします。

5. 宿泊

各自でのご予約をお願いいたします。

本学会大会では、つくば市コンベンション協会の助成を受けるため、つくば市内にお泊りの方の宿泊先ホテルを伺う必要がございます。大会に参加申込をされた方に、氏名と宿泊先をお伺いするフォームを大会直前にお送りしますので、つくば市内に宿泊される方はご回答の程よろしくお願い申し上げます。

6. その他

・発表要旨集録は、紙媒体では配布せず、大会ウェブサイトからダウンロードしていただきます。なお、発表要旨集録の閲覧にはパスワードが必要となります。大会参加申込完了時に自動返信でお届けするメールに閲覧用パスワードを記載いたしますので、ご確認くださいようをお願いいたします。

・オンライン参加の方には、オンライン参加として申込をされた方に、6月2日（金）までに参加用URLをお送りします。

・新型コロナウイルス感染状況の拡大などの緊急事態が発生した場合、やむを得ず全面オンラインでの開催となる場合があります。その際は、大会 Web サイトおよびメールにてご案内を差し上げます。

◆第 63 回大会 Web サイト：<https://sites.google.com/view/jasea2023/>

自由研究発表要領

1. 発表時間

自由研究発表の時間は、以下の通りです。

- (1) 発表者が1名の場合：発表時間 20 分＋質疑 5 分（計 25 分）
- (2) 発表者が複数の場合：発表時間 40 分＋質疑 10 分（計 50 分）
- (3) 共同討議の時間は 25 分です。

※ 共同研究の場合にはプログラムのお名前に○印を付した方が口頭発表者になります。

2. 発表機材

プロジェクターをご利用の場合は、コンピュータをご持参ください。各会場には、プロジェクター、スクリーン、HDMI を装備したケーブルを用意します。必要に応じて HDMI に接続可能な変換アダプタなどをご持参ください。自由研究発表の開始までに、発表者の責任において接続の確認をしてください（開始 20 分前頃より接続のテストができるようにしておきます）。

3. 発表資料

当日、発表資料を配布予定の方は、事前に印刷の上、会場にご持参願います。参加者数に対して資料の不足が生じないようにご注意ください。必要部数（各自 70～100 部を目安）をご持参の上、該当会場の係員にお渡しください。資料配布机に置く形で配布させていただきます。発表直前に大会要員が配布するという形ではありませんので、ご注意ください。

※資料の印刷や増刷のご要望には、大会準備委員会としてお応えできません。

※発表資料等を大会校に事前送付することはおやめください。紛失等の事故が生じることがあるため、資料の事前送付には対応しておりません。

4. 発表の取り止めについて

万一、お申し込んだ発表を取り止める場合は、必ず事前に大会実行委員会の下記連絡先までご連絡ください。発表者が欠席の場合は、発表時間の繰り上げはせず、質疑・休憩の時間に割り当てます。

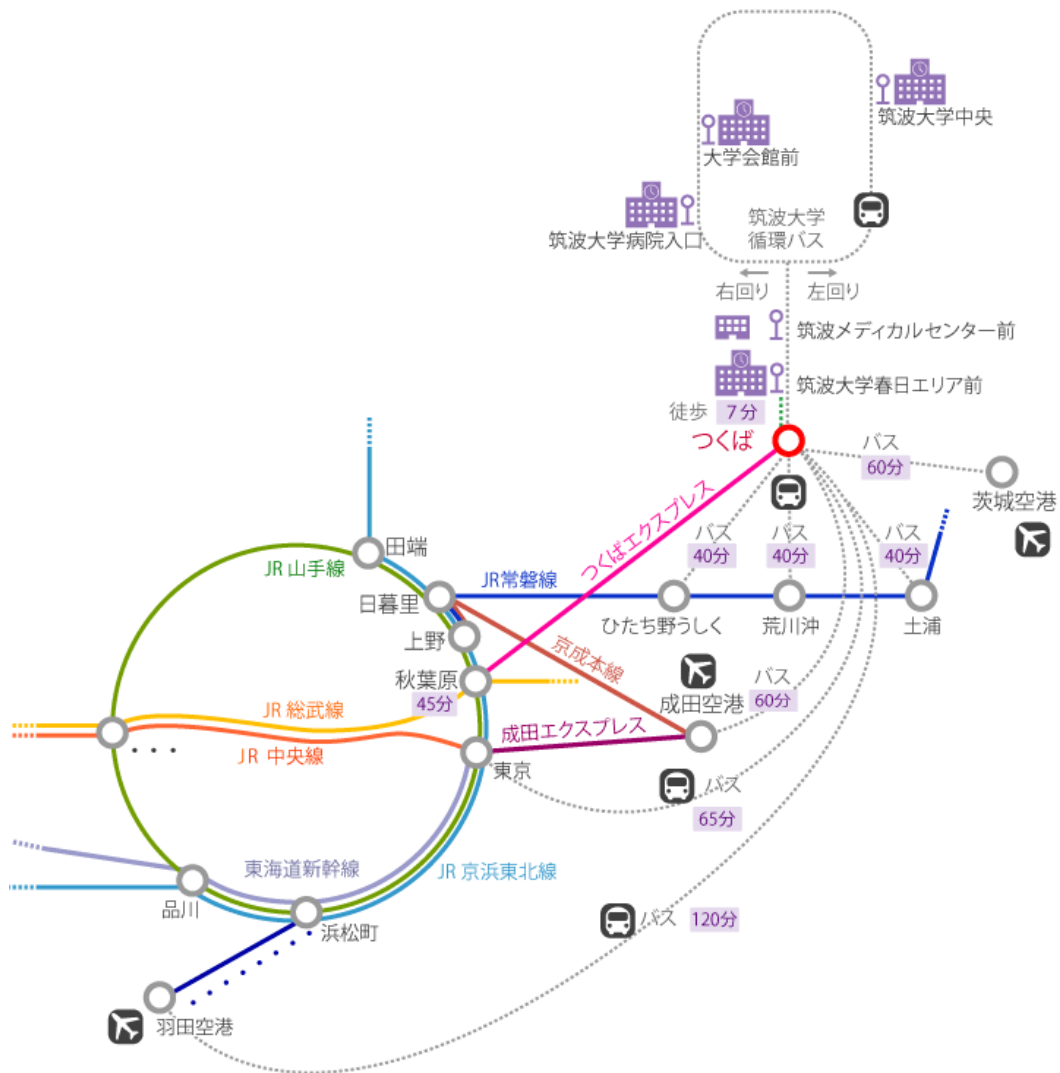
大会前（～6月1日）の連絡先：jasea2023@gmail.com

大会期間中（6月2日～4日）の連絡先：080-1882-5223（朝倉）、090-6196-0147（古田）

5. その他

自由研究発表者は、自由研究発表開始 10 分前（8 時 50 分まで）に司会者に発表会場に到着した旨を対面でお伝えください。

交通案内



(1) 電車をご利用の場合

- ① 最寄り駅は、つくばエクスプレス「つくば」駅となります。
「秋葉原」駅から、つくばエクスプレスの快速で終点「つくば」駅まで 45 分です。
- ② 「つくば」駅前のつくばセンターバスターミナルの 6 番バス乗り場より、関東鉄道バス「筑波大学循環（左回り）」もしくは「筑波大学循環（右回り）」にご乗車いただき、「筑波大学中央」バス停にて下車してください。
* 「筑波大学中央」までの所要時間は、「筑波大学循環（左回り）」は約 15 分、「筑波大学循環（右回り）」は約 20～25 分です。
* 休日ダイヤのため、バスは 20 分に 1 本の間隔となります。ご了承ください。
* バスの時刻表は、関東鉄道バスの以下のページからご覧いただけます（6 番乗り場の時刻表をご参照ください）。
https://www.kantetsu.co.jp/bus/timetable_tsukuba.html
* 駅からはタクシーもご利用いただけます。

(2) 高速バスをご利用の場合

「東京」駅からは筑波大学行き的高速バスが便利です（交通系 IC カードも利用可能です）。是非ご利用ください。終点「筑波大学」バス停にて下車してください（所要時間：約 75 分）。
* 帰りの東京駅行き的高速バスは、交通状況により遅れる場合があります。ご注意ください。
* 高速バスの詳細や時刻表は、以下のページをご参照ください。

https://www.kantetsu.co.jp/bus/highway_tsukuba_tokyo.html

(3) お車でお越しの場合

常磐道「桜土浦」インターより、約 8km（所要時間：約 20 分）です。

- ① 常磐道「桜土浦」I.C. を下車し、筑波方面に向かってください。
- ② 大角豆（ささぎ）交差点を右折し、県道 55 号線（学園東大通り）を北に直進してください。
- ③ 筑波大学中央入口で左折してください（大きな T 字のモニュメントが目印です）。

入口を入ったところの駐車場（K5 本部南ゲート駐車場）に、手続なしでご駐車いただけます。



○ アクセスやキャンパスマップの詳細につきましては、筑波大学のウェブサイトもあわせてご参照下さい。 <https://www.tsukuba.ac.jp/access/>

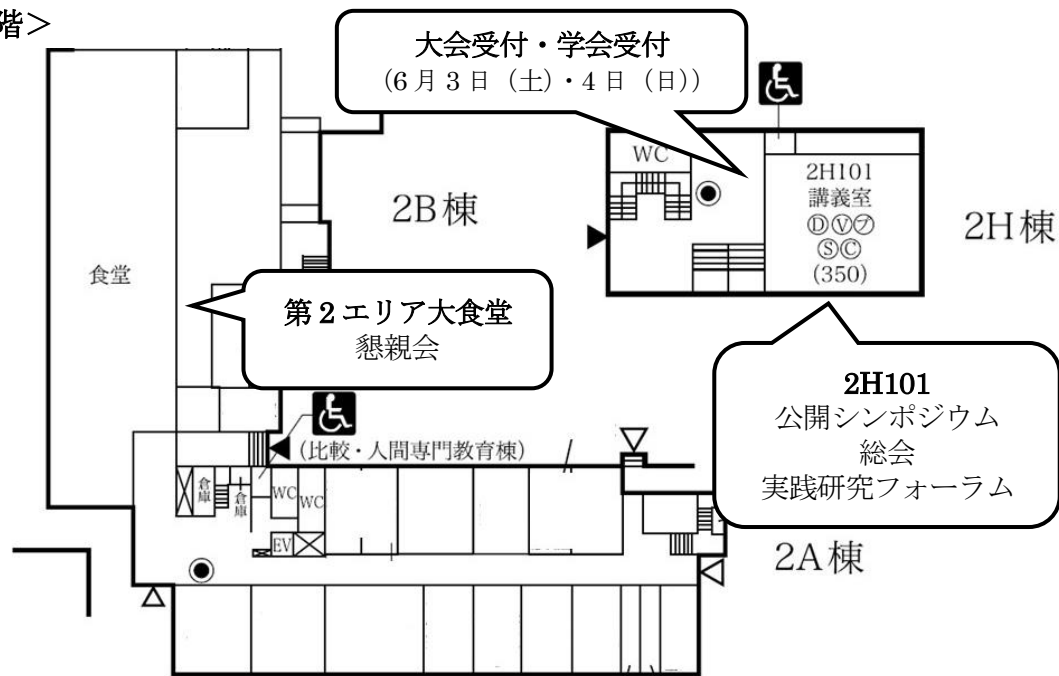
キャンパスマップ（筑波キャンパス中地区）



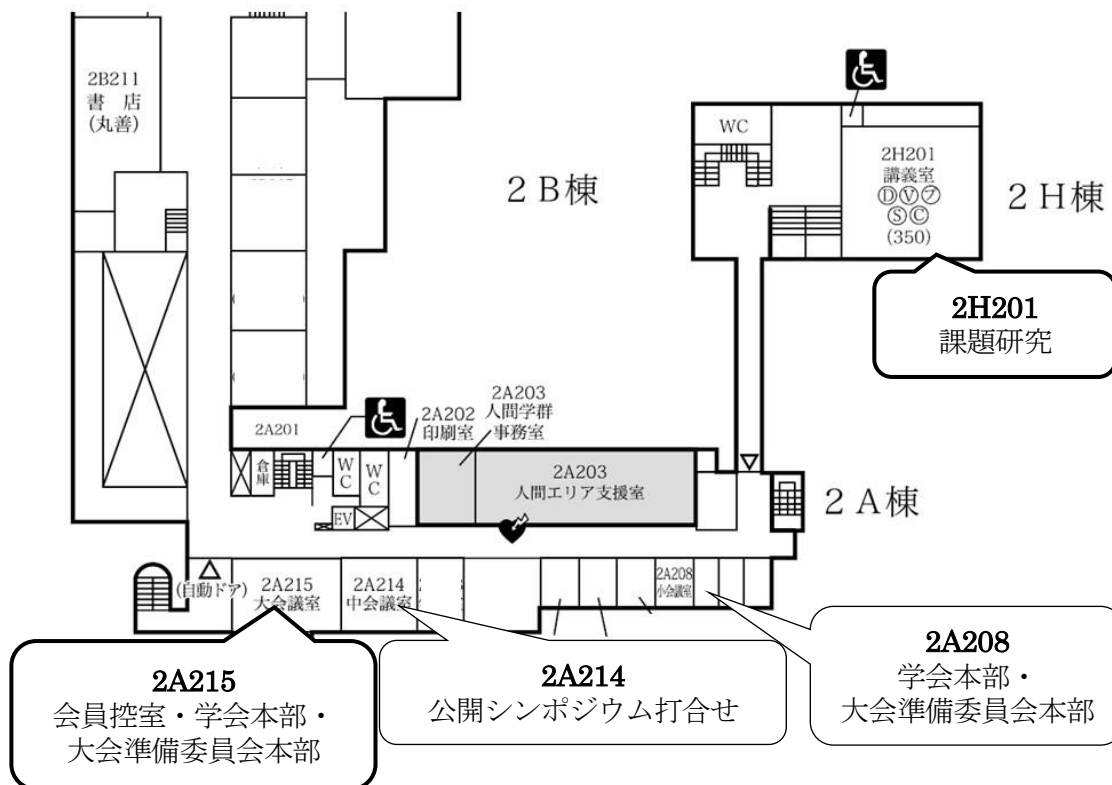
6月3日(土)・4日(日) 会場 フロアマップ (2A・2B・2H 棟)

※6月2日(金)は、前頁のキャンパスマップに記載の「人間系学系B棟」5階にお越しください。(若手研究者のための研究フォーラム：B523/524号室)

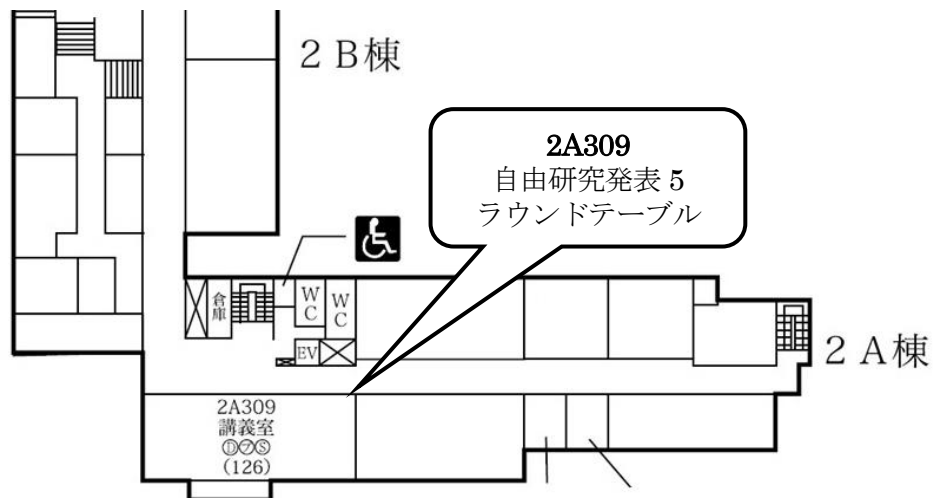
<1階>



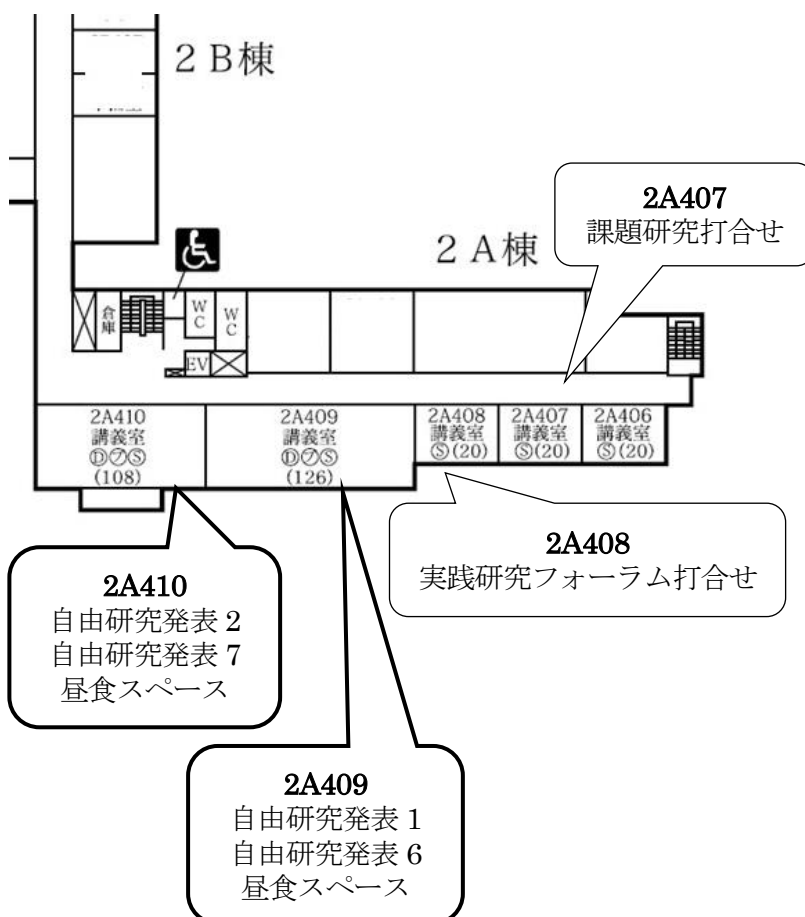
<2階>



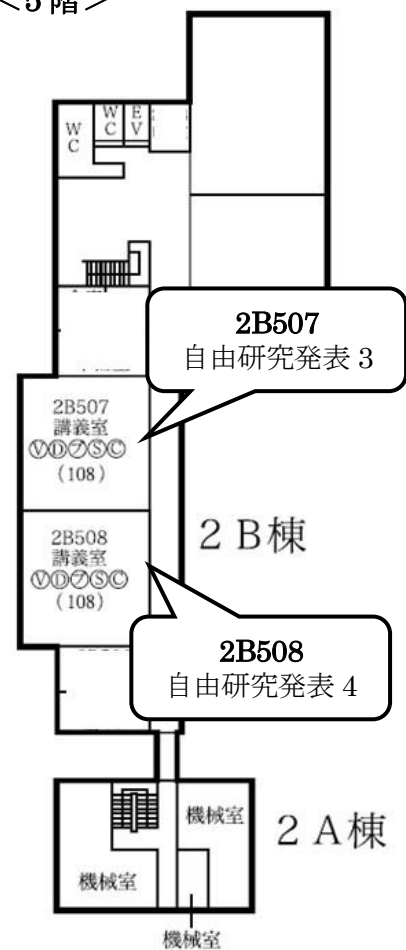
<3階>



<4階>



<5階>



6月2日（金）17：00～19：00 会場：人間系学系B棟5階 B523/524

若手研究者のための研究フォーラム

若手研究者が考える教育経営学研究の現在地と展望

【趣旨説明】

若手研究者のための研究フォーラム（前身「若手研究者のためのラウンドテーブル」）は、これまで若手研究者を取り巻く研究環境や、若手から見た教育経営学における新たな研究課題および方法、教育経営学の知的蓄積の継承と刷新をテーマに議論を重ねてきた。

そもそも、時代や社会の影響により、若手研究者は、先行世代とは異なる研究上の問題意識や着眼点を有することも少なくない。そしてそのことが、教育経営学研究における現在地や展望の捉え方にも影響すると思われる。また、これまでに、先行世代の参加者からは「若手が最初から教育経営研究のあり方を無理に考え、若手が教育経営学を背負いすぎている」との指摘を得た。以上から、若手自らの研究の着眼点を共有・議論するなかで、そこから教育経営学研究のあり方を模索する必要性があることを確認してきた。

そこで、今年度の若手研究者のための研究フォーラムでは、若手研究者自身の研究における問題意識や着眼点を手掛かりとして、そこから教育経営学研究の現在地と展望について探究を進めることとしたい。そのため、議論の柱は、次の2点とする。

第一は、自身の研究をどう位置づけ、いかなる着眼点・研究方法から、どのような問題に光を当てて研究を進めているのかについてである。若手研究者固有の着眼点や問題意識、葛藤などについて、議論する契機としたい。

第二は、なぜ日本教育経営学会に入会したのか、教育経営学に対してどのような思いや期待を有するのかについてである。自身の研究における問題意識や着眼点等を踏まえて、教育経営学の展望について意見交流を行いたい。

昨年度（2022年度）の登壇者は、これまで焦点が当たりにくかったが、時代的・社会的に重要になっている問題に光を当てようとしている3名の会員にお願いをした。

今年度の登壇者は、研究対象に対して、多層的に独自のアプローチで取り組んでいる3名の会員にお願いをした。登壇者の話題提供を踏まえて、上記2つの議論の柱をトークテーマにして、参加者全体で議論を行いたい。

【話題提供者】

1. 西野 倫世（大阪産業大学）：米国にみる教授活動評価の展開と学校経営の現代的課題
2. 古田 雄一（筑波大学）：子どもの視点から教室・学校・地域を連関的に捉える市民性教育研究
3. 丹間 康仁（千葉大学）：学校統廃合を切り口とした地域教育経営課題の探究

【司会】原北 祥悟（崇城大学）、田中 真秀（大阪教育大学）

※今期（第五期：2022～2024）は、ワーキンググループ（以下、WG）を設置し、具体的な企画・運営を進めている。

WGメンバー：山本遼（大分大学）、西野倫世（大阪産業大学）、榎景子（長崎大学）、田中真秀（大阪教育大学）、原北祥悟（崇城大学）、古田雄一（筑波大学）、末松裕基（東京学芸大学）
*若手ネットワーク担当：全体調整・理事会報告を担当）

6月3日(土) 9:00~11:35

会場:2A棟4階 2A409教室

自由研究発表1

【司会】 天笠 茂 (千葉大学)
雪丸 武彦 (西南学院大学)

9:00~9:05	司会挨拶
9:05~9:30	「組織開発」の視点を大切にしたプロジェクト型働き方改革の取り組み ○中村 浩二 (名古屋市教育委員会事務局)
9:30~9:55	学校の危機管理における高信頼性組織化 —安全な学校 (Safe School) の視点から— ○福本 昌之 (広島市立大学) 湯藤 定宗 (玉川大学)
9:55~10:20	心理的安全性の観点からみた教員集団内における関係構築の要因に関する一考察 —異動後の教員の立場に着目して— ○和田 真季 (大阪公立大学大学院生)
10:20~10:45	教員の校長に対する信頼形成についての一考察 —小学校教員を対象とした調査から— ○西川 潔 (関西福祉科学大学)
10:45~11:10	学校管理職の制御フォーカスがウェルビーイングとサーバントリーダーシップ実践に及ぼす影響 ○露口 健司 (愛媛大学大学院)
11:10~11:35	共同討議

6月3日(土) 9:00～11:35

会場:2A 棟4階 2A410 教室

自由研究発表2

【司会】 佐藤 晴雄 (帝京大学)
末松 裕基 (東京学芸大学)

9:00～9:05	司会挨拶
9:05～9:30	高知市型コミュニティ・スクールの実現に向けた実践と課題 ～学校と地域と行政とのプラットフォーム化を基盤に～ ○野村ゆかり (一般社団法人もうひとつの大きな家族) 押田 貴久 (兵庫教育大学)
9:30～9:55	エンゲージメントからエンパワメントへ、総学が変えた子どもたち・教員・学校 —研究者の伴走は学校経営にどのような効果をもたらすのかその効果の検証— ○滋野 哲秀 (龍谷大学)
9:55～10:20	「学習するコミュニティ」としてのコミュニティ・スクールに関する理論的考察 —S.ランソンの学校ガバナンス論を手がかりにして— ○大空 秀文 (広島大学大学院生)
10:20～10:45	コミュニティ・スクールの持続・発展に関する考察 —訪問聞き取り調査から— ○屋敷 和佳 (東京都市大学)
10:45～11:10	市町村の県立高校支援に関する一考察 —小規模自治体における教育委員会と首長部局の取り組み事例から— ○川口 有美子 (公立鳥取環境大学)
11:10～11:35	共同討議

6月3日(土) 9:00～11:35

会場:2B棟5階 2B507教室

自由研究発表3

【司会】 北神 正行 (国土館大学)
大野 裕己 (滋賀大学)

9:00～9:05	司会挨拶
9:05～9:30	OODA ループを取り入れた学校経営 ○吉岡 学 (長岡京市立長岡第四小学校)
9:30～9:55	公立小学校における国際バカロレア導入と学校改革へのインパクト —インタビューによる事例分析から— ○佐々木 恵美子 (サニーサイドインターナショナルスクール)
9:55～10:20	韓国における校長の役割遂行を支える制度的・組織的条件とその構造 ○森 貞美 (聖徳大学) 張 信愛 (共愛学園前橋国際大学) 朝倉 雅史 (筑波大学) 浜田 博文 (筑波大学)
10:20～11:10	社会情動的能力の育成を促進する学校マネジメントに関する研究 —研究の枠組みと事例分析を中心に— ○佐藤 博志 (筑波大学) ○柏木 智子 (立命館大学) ○西野 倫世 (大阪産業大学) ○小野 まどか (植草学園大学) ○吉川 麻紘 (筑波大学大学院生) 矢田 匠 (フィンランド国立教育研究所)
11:10～11:35	共同討議

6月3日(土) 9:00~11:35

会場:2B棟5階 2B508教室

自由研究発表4

【司会】 武井 敦史 (静岡大学)
川上 泰彦 (兵庫教育大学)

9:00~9:05	司会挨拶
9:05~9:55	学校づくりの原理としての「写生」に関する考察 ○曾余田 浩史 (広島大学) ○曾余田 順子
9:55~10:20	堀内孜の公教育経営学の現代的意義に関する一考察 ○大林 正史 (鳴門教育大学)
10:20~11:10	教育経営システムの構造変容に関する総合的研究 (1) —SC・SSWの配置と学校経営— 植田 健男 (花園大学) 大野 裕己 (滋賀大学) ○加藤 崇英 (茨城大学) ○首藤 隆介 (名古屋市立中学校) 高橋 寛人 (石巻専修大学) 棚野 勝文 (岐阜大学) ○南部 初世 (名古屋大学) ○濱口 輝士 (名古屋文理大学) 平井 貴美代 (山梨大学) 前原 健二 (東京学芸大学)
11:10~11:35	共同討議

6月3日(土)13:00~16:00

会場:2H棟1階 2H101教室

公開シンポジウム

「ウェルビーイングと教育経営の在り方」を考える —新時代の学びと子どもの発達の支援に向けて—

今日は新時代の教育に向けての大きな転換点である。変動性、不確実性、複雑性、曖昧性が社会の特徴になり、それに対応した学びの必要性が指摘されてきた。2020年以降、コロナ禍により教育活動が制約されたが、GIGAスクール構想の実施が加速され、ICTの活用が広く普及している。2022年には、こども基本法が制定され、こどもの意見表明機会・参画の確保、意見の尊重、その最善の利益を優先して考慮することが必須となった。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現も政策で提言されている。一方、教育現場の実態に目を向けると、子どもの価値観やニーズの多様化、学力の格差、貧困の連鎖、いじめなどの生徒指導上の課題が生じており、学びの環境の整備や発達支援の充実が求められている。

学校教育と子どもの発達をめぐる諸課題を解決するためには、諸施策や実践の創意工夫にとどまらず、私たち自身の教育理念を転換することも要請されている。理念に立ち戻った上で、様々なシステムや実践をめぐる問題と今後の在り方を論究することが本シンポジウムの狙いである。本シンポジウムが着目する理念はウェルビーイング(well-being)である。ウェルビーイングは、救済的なウェルフェア(welfare)との対比で、最低限度の生活保障だけではなく、個人の意思決定やニーズを尊重し、人間的に豊かな自己実現を保障する観点から形成された。「ウェルビーイングのための学びは、自己、他者、環境との関係において、身体的、感情的、内的、精神的な側面が発達することを通して、私たちの固有な可能性を最大限に引き出すことを目的としている」(O'Toole and Kropf 2012: 5)。

したがって、不利な状況におかれた子どもへの配慮や格差縮小のための措置を積極的に捉える公平(equity)概念とも密接な関連がある。現代社会が複雑で流動的なことを考えると、人は誰でも「生きづらさ」を感じ、「生きる意味」を見失う可能性を持っている。こうした状況をふまえると、ウェルビーイングは、教育をめぐる普遍的な理念として捉えられる必要がある。優劣を競う教育から脱却し、多様性を前提として一人ひとりの幸せを実現するために、「温かい人間関係を築き、つながりを感じられるような学校と教室のエートスをつくること」(Woolf & Digby 2021: 11)が、今後の教育経営の一つの方向性ではないだろうか。

ウェルビーイングを実現するための実践は、学校や教育機関で個別に行われてきた。一方、そのためのシステム、ビジョンと方略(strategy)、教師と生徒などの学校に関わる人々の相互作用、実践プロセスの在り方は、教育経営学の観点から論究が求められる。このシンポジウムでは、報告①地方自治体としての「教育のデジタルトランスフォーメーション施策」、報告②学校における「不利な状況の子どもを支える実践」に焦点を当てて、これらの具体的事象との関連でウェルビーイングの実現について検討する。その後、指定討論者のコメントをいただいた上で、様々な観点からフロアの皆様と共に議論し、これからの教育経営の在り方を考えたい。

【プログラム】

はじめに 本シンポジウムの趣旨と視点

佐藤博志（筑波大学）

報告① 学校教育におけるデジタルトランスフォーメーション(DX)の展開とウェルビーイングの実現—「未来をつくる」ための自治体の教育施策と学校・教室の新たな学び—

細田眞由美（さいたま市教育長）

報告② 学校に関わる人々の可能性を最大化する教育実践とウェルビーイング—不利な状況の子どもを支援する各地の多様な教育実践を取材して感じたこと—

山浦彬仁（NHK第2制作センター＜社会＞ディレクター）

指定討論① 実践者の立場から

田代淳一（茗溪学園長）

指定討論② 研究者の立場から

篠原岳司（北海道大学）

〔司会〕 佐藤博志（筑波大学）

柏木智子（立命館大学）

【報告者、指定討論者、司会紹介】

細田眞由美

さいたま市教育委員会教育長

兵庫教育大学大学院学校教育研究科教育実践高度化専攻教育政策リーダーコース専門職学位課程修了。修士（教育学）（兵庫教育大学）

埼玉県立高等学校教諭（英語）、埼玉県教育委員会事務局、埼玉県立伊奈学園中学校教頭、埼玉県立庄和高等学校教頭、さいたま市教育委員会事務局、さいたま市立大宮北高等学校校長を経て、現職。中央教育審議会初等中等教育分科会臨時委員、産業構造審議会イノベーション小委員会委員、日本ユネスコ国内委員会委員。世界と日本の子供たちの健やかな成長を心から願っている。長野県出身。高校卒業後、米国大学に留学した国際派。IB、STEM、Evidence-Informed 等の教育改革を推進。

山浦彬仁

NHK 第2制作センター＜社会＞ディレクター

筑波大学第二学群人間学類教育学主専攻卒業。学士（人間科学）（筑波大学）

NHK クローズアップ現代担当。「コロナ禍の高校生」「さらば！高校ドロップアウト〜ルポ・中退防止最前線」「外国人労働者の子どもたち」「在留資格のない子どもたち」「虐待後を生きる」などを制作。ETV 特集「すべての子どもに学ぶ場を〜ある中学校と外国人生徒の歳月〜」で2020年度ギャラクシー奨励賞受賞。「取材の中で高校の先生が仰った『支援が必要な生徒ほど、途中で辞めてしまうんです』という言葉が忘れられない」と言っている。カメラの中に現実と矛盾を記録し、報道を通して、共に支え合う社会の実現を目指している。

田代淳一

茗溪学園長

筑波大学大学院修士課程教育研究科修了。教育学修士（筑波大学）

「教育実験校」として筑波大学同窓会の「茗溪会」によって創設された茗溪学園に永年勤務。茗溪学園中学校高等学校教諭（化学）、教務部長、校長を経て、現職。茗溪会理事。世界標準の IB 教育を手掛ける。2016 年、国際バカロレア機構からディプロマ・プログラムの認定を取得し、同校を IB World School の世界約 4000 校（当時）の一員にした。現在も学園長の重責の傍ら教壇に立ち、同校の IB DP の授業を担当。生徒との交流を重んじている。

篠原岳司

北海道大学大学院教育学研究院准教授

北海道大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）（北海道大学）

日米の教育ガバナンス改革を研究。ブラウン大学（米国）、福井大学、滋賀県立大学を経て現職。アンディ・ハーグリーブスとマイケル・フランの著作を翻訳し刊行（『専門職としての教師の資本：21 世紀を革新する教師・学校・教育政策のグランドデザイン』金子書房、2022 年）。主要研究業績として「教育経営学」下司晶・他編著『教育学年報 11—教育研究の新章—』世織書房、2019 年、「分散型リーダーシップに基づく教育ガバナンスの理論的再構築」『教育学研究』80（2）、2013 年、「現代米国教育委員会制度改革と教育専門職リーダーシップ—Boston Plan for Excellence のコーチングに着目して—」『日本教育行政学会年報』第 34 号、2008 年（日本教育行政学会研究奨励賞受賞論文）等がある。

佐藤博志

筑波大学人間系教育学域教授・人間学群教育学類長

筑波大学大学院博士課程教育学研究科単位取得退学。博士（教育学）（筑波大学）

日豪の教育改革を研究。国際共同研究 International Successful School Principalship Project に参加し、日本の校長の実践を海外に発信。著作として『オーストラリア学校経営改革の研究—自律的学校経営とアカウンタビリティ』東信堂、2009 年（日本教育経営学会学術研究賞受賞図書）、*School Governance in Global Contexts*, Routledge, 2022、『コロナ禍の学校で「何が起こり、どう変わったのか」』東信堂、2022 年（共編著）等がある。

柏木智子

立命館大学産業社会学部教授

大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了。博士（人間科学）（大阪大学）

子どものケアや公正(Equity)を実現するための教育改革・学校づくりを研究。現場に入り込みフィールドワークを通して、困難に立ち向かう教師たちと共に歩む。著作として『貧困・外国人世帯の子どもへの包括的支援—地域・学校・行政の挑戦』晃洋書房、2020 年、『子どもの貧困と「ケアする学校」づくり—カリキュラム・学習環境・地域との連携から考える』明石書店、2020 年（日本教育経営学会学術研究賞受賞図書）等がある。

6月3日(土)16:15～17:15

会場:2H 棟 1 階 2H101 教室

総会

※総会を欠席する会員は、委任状提出用の URL (<https://forms.gle/rkrfC3kDr8SeCwUo8>) にアクセスして事前に「委任状」をご提出ください。

◆委任状提出用フォームには、以下の QR コードからもアクセスいただけます。



6月3日(土)17:45～19:45

会場:2B 棟 1 階 第 2 エリア大食堂

懇親会

茨城の銘酒や名品などを取り揃えてお待ちしております。4年ぶりの対面での懇親会となりますので、久しぶりの会員交流の機会として、是非皆さまお誘いあわせの上ご参加いただければ幸いです。

6月4日(日) 9:00~11:35

会場:2A 棟 3 階 2A309 教室

自由研究発表 5

【司会】 南部 初世 (名古屋大学)
山下 晃一 (神戸大学)

9 : 00~9 : 05	司会挨拶
9 : 05~9 : 30	学区を基盤とする多様な公立学校の運営における分権型ガバナンスの可能性 —1970年代アメリカのサウスイースト・オルタナティブズを事例にして— ○小野 明日美 (筑波大学)
9 : 30~9 : 55	米国チャータースクール制度におけるオーソライザー評価システムに関する研究 —Minnesota Authorizer Performance Evaluation System (MAPES) Round Two Summary Report に焦点を当てて— ○湯藤 定宗 (玉川大学) 福本 昌之 (広島市立大学) 諏訪 英広 (川崎医療福祉大学)
9 : 55~10 : 20	エビデンスに基づく政策立案における仲介者の役割 ○桐村 豪文 (弘前大学)
10 : 20~10 : 45	教育政策の立案・検証と教育研究 —ドイツの事例から— ○坂野 慎二 (玉川大学)
10 : 45~11 : 10	コロナ禍におけるドイツ民主主義教育 ○柳澤 良明 (香川大学)
11 : 10~11 : 35	共同討議

6月4日(日) 9:00～11:35

会場:2A 棟 4 階 2A409 教室

自由研究発表 6

【司会】 平井貴美代（山梨大学）
元兼 正浩（九州大学）

9 : 00～9 : 05	司会挨拶
9 : 05～9 : 30	「学びを止めない」と働き方改革の両立 ～オンライン授業、ハイブリッド授業づくりを中心として～ ○杉山 一郎（新潟県十日町市立馬場小学校）
9 : 30～9 : 55	イギリスにおける働き方改革の取り組み —PPA Time を事例として— ○植田 みどり（国立教育政策研究所）
9 : 55～10 : 20	教職はブラックか？（その2） ～教師の働きかけとしての「自己有用感」 ○本図 愛実（宮城教育大学）
10 : 20～10 : 45	教職員のやりがいを育む校長のリーダーシップに関する考察 —特別支援学校における実践事例から— ○益子 典子（大阪府立住之江支援学校）
10 : 45～11 : 10	労働時間のウェルビーイングへの影響度に関する教員と他職種の比較 ○神林 寿幸（明星大学） 廣谷 貴明（国立教育政策研究所） 青木 栄一（東北大学）
11 : 10～11 : 35	共同討議

6月4日(日) 9:00～11:35

会場:2A 棟 4 階 2A410 教室

自由研究発表 7

【司会】 高妻紳二郎（福岡大学）
加藤 崇英（茨城大学）

9 : 00～9 : 05	司会挨拶
9 : 05～9 : 30	学校改善の外的要因の影響に関する研究 —地方教育行政組織と学校運営協議会の機能に着目して— ○村上 正昭（福生第五小学校）
9 : 30～9 : 55	教師の視線配布行動を科学する —教職経験年数の違いにおける視線と動線の可視化を通じて— ○森脇 正博（京都教育大学附属京都小中学校）
9 : 55～10 : 20	TT 継続 60 年・秋田市立築山小学校からの報告 —研究と経営の一体化を目指して ○濱田 眞（秋田大学非常勤講師）
10 : 20～11 : 10	公正で質の高い教育を目指した ICT 活用のインパクトと促進条件に関する研究 ○藤原文雄（国立教育政策研究所） ○露口健司（愛媛大学） ○諏訪英広（川崎医療福祉大学） ○生田淳一（福岡教育大学）
11 : 10～11 : 35	共同討議

6月4日（日）11：50～12：50

会場：2A棟3階 2A309教室

ラウンドテーブル

教育経営学における研究倫理を考える —ここから見えてくる教育経営学のこれから—

【企画趣旨】

日本教育経営学会の特徴として、学校をめぐる人・人間関係を扱う、理論と実践の関係性を重視する、多様な出自の会員が存在すること等が挙げられる。これらの特徴は、本学会の魅力であるとともに、研究の複雑さ・価値葛藤・困難さを生む要因でもある。

さらに近年の本学会の動向として、教職大学院の拡充等による教育現場の会員の増加に伴って実践的有意義性が求められるとともに、研究業績が厳しく問われる状況において学問的厳密性をいかに求めていくかという課題に直面している。その中で、研究・学会活動の基盤としての「研究倫理」のあり方が問われている。たとえば、次のような問題である。

- ・人権の観点や剽窃の問題などを配慮しながら、かつ、教育経営研究の面白さをいかに担保するか
- ・研究倫理のトレーニングを受けていない会員も多く存在するが、どうするか
- ・教職大学院ではアクションリサーチ型研究や「発見的・探索的な研究」を重視するが、大学の研究倫理の考え方は医学系の発想が中心になっており、ずれを感じる。教育現場の実践の質を高めていく研究倫理の考え方が求められるのではないか。

研究倫理を考えることは、「倫理をいかに守るか」にとどまらず、研究や学会の未来像を考えることでもある。今回のラウンドテーブルでは、本プロジェクトのねらいとこれまで積み重ねた議論を確認・共有した上で、フロア声を交えて、学校現場・大学（院）・学会等における教育経営学をめぐる研究倫理の問題状況を包括的に把握したい。そこから、多様な人が参加可能となり、より豊かになるよう、本学会のこれからのあり方を考えたい。

将来構想検討プロジェクト担当

木岡 一明	（日本教育経営学会会長）
曾余田 浩史	（広島大学）
南部 初世	（名古屋大学）
末松 裕基	（東京学芸大学）

6月4日(日)13:00~16:00

会場:2H棟2階 2H201教室

課題研究

教育経営学研究の新機軸の探究(2)

【課題設定の趣旨】

昨年度の課題研究は、今日の社会において従来の認識枠組みでは捉えきれない状況や変化が生じているのではないかという認識を前提に、教育経営学研究がどのようにその現実を捉えているのか、これまでの理論にどのような限界、課題があるのかを検討することにより、新たな研究の在り方を探究することを目的とした。その目的に迫るため、ゲストスピーカーとして臨床心理を専門とする小松貴弘氏(神戸松蔭女学院大学教授)を招いて、問題提起を受け、議論を行った。その議論を通じて、教育経営学研究が向き合うべき課題が浮かび上がってきた。それは、小松氏が提起した可謬性＝誤りやすさとヴァルネラビリティ＝傷つきやすさに向き合うこと、現実には起きていることに目を向けることが課題となっていること、そしてそれを踏まえてこれまでの教育経営学の理論を見直すこと、以上のような課題であった。

今年度の課題研究は、昨年度の議論を踏まえると、これまでの教育経営学研究が見過ごしてきた現象、現実には迫る必要があると考えた。そこで、新たな研究方法に挑戦し、これまでの教育経営学研究とは異なる新たな知見をつかみ取り、教育経営学研究の新たな機軸を探ることを目的とした。

研究方法は、小学校、中学校の教員に対する聞き取り調査とそのデータの分析である。参考にしたのは、村上靖彦(2013)『摘便とお花見』(医学書院)で紹介されていたアプローチ(pp.342-363)になる。それは現象学的分析であり、インタビューによって得られた文字データの読み解きを通じて、何らかの要素を掘り起こし、さらにはその要素間の連関を明らかにすることにより、背後にそれを支える運動や構造を見出そうとするものである。研究推進委員会では、この研究方法を参考にして、インタビューを行い、その文字データの分析に取り組んできた。

今年度の課題研究では、上記の分析により得られた知見を整理し、新たな気づきを提起することにより、これまで教育経営学研究が見過ごしてきたこと、十分に関心を払うことができなかったことを浮かび上がらせたと考えている。インタビューは、4人の小中学校の教員を対象にして、1人につき、2回ないし3回、実施してきた。その分析結果を報告し、その意味について議論する機会としたい。

【報告】

小学校教諭(A)のインタビューの分析	榎 景子(長崎大学)
小学校教諭(B)のインタビューの分析	田中 真秀(大阪教育大学)
中学校教諭(C)のインタビューの分析	小早川 倫美(島根大学)
中学校養護教諭(D)のインタビューの分析	武井 敦史(静岡大学)

【司会】

三浦智子(兵庫教育大学) 竺沙知章(京都教育大学)

6月4日(日)13:00~16:00

会場:2H棟1階 2H101教室

実践研究フォーラム

教育経営研究につながる実践事例 (Good Report of Practice) の価値の 在り方

今期実践推進委員会では、教育経営の学を探究する本学会で、実践事例を掘り出し、文章化し、広く会員内で共有していくことの意味や必要性、その課題について検討を進めることをミッションとして公開研究会の企画運営等を進めている。特に、いわゆる GP (Good Practice) ではなく、教育経営学にとって意味のある事例の記述 (Good Report of Practice) とはどのようなものなのかを探究すべく、事例の発掘だけでなく、その「論文化」をテーマとして考えている。

昨年度の実践研究フォーラムでは、これまでの本学会での実践事例の位置づけを振り返り、あわせて実践事例にはどのような意味や価値がありうるのかを吟味検討した。そこでの多様な議論から、事例の持つ意味や価値の多面性が浮き彫りになるとともに、「誰のための、誰による実践事例の記述であるのか」という点において幅広い論点がありうることを共有した。

本年度の実践研究フォーラムでは、昨年共有した論点の中でも、多くの会員が感じ取りながら直視せずに来ているのではないかと考えられる、「研究のための事例の記述と実践のための事例の記述の間にありうる二項対立」に目を向け、あえてその潜在的な溝の存在を浮き彫りにしながら、表面的には曖昧だが時に記述者の葛藤の源泉となる実践事例の記述に対する評価の観点の多様性を吟味したい。これまで、個別文脈的な事例検討は、科学的妥当性と相反すると見なされてきたきらいがある。しかしながら、教育実践のうえでは個別文脈的な数々の事例から共通に見いだされる効果がまったくないとは必ずしもいえず、むしろそうした個別文脈的な事例の蓄積も学会として一つの役割と考えることができるのではないだろうか。そうした意味で、本学会では実践事例をどのように扱おうとしてきたのか。また、今後どう扱っていくべきなのか。この部分を議論したい。

そこで、教育経営の実践事例を多様な形で扱う立場にある会員から、それぞれのフィールドでは実践事例の記述がどのような意図から「良い記述」として評価されるのかについて報告していただき、そこでの実践事例は上述した二項対立の仮説からするとどのような実践事例として位置づけるのかも試みに提示していただく。これらをもとに、本学会での実践事例をめぐる価値づけの問題を考える機会としたい。

司 会：高谷哲也（鹿児島大学）

学術的貢献と学校現場への貢献から見た「良い」実践事例
教員研修における実践事例の位置と課題
経営教育における実践事例の射程
論点提示：実践事例の多様な扱われ方を整理する

長倉 守（岐阜大学）
吉田尚史（山形大学）
竹内伸一（名古屋商科大学）
安藤知子（上越教育大学）

時事通信社の教育関係書

教育の制度と学校のマネジメント

加藤 崇英・臼井 智美〔編著〕
福島 正行・田中 真秀・照屋 翔大〔著〕

本書は、新しい学校の潮流を学ぶための内容を網羅的に扱い、教育の制度と学校のマネジメントの仕組みと現状について、コンパクトに学べる教科書である。

学校は、1998 年の中教審答申「今後の地方教育行政の在り方について」以降、地方分権化と規制緩和の環境下、「開かれた学校」を目指し、近年では、首長の関与が高まるかたちで地域住民の意向がこれまでに以上に反映される「新教育長」が「チーム学校」をマネジメントすることが求められている。

本書は、公教育の原理、教育を受ける権利、教育の機会均等と学校制度や教育法規の基本的体系を理解し(1～2章)、中央教育行政と地方教育行政の役割と機能、学校財務と予算を確認する(3～5章)。その後、新学習指導要領や教科書制度などの教育課程に関する法制度と学校における教育課程編成の課題(6～7章)、学校・校長の裁量権限の拡大や新しい職の設置など学校組織について確認し、「チーム学校」での対応、学校評価と教員評価について見ていく(8～11章)、最後に学校と地域の関係づくりと、学校安全について確認する(12～13章)。



■A5判・183頁
■定価:1,980円(本体1,800円+税)

死にたかった 発達障がい児の僕が 自己変革できた理由

麹町中学校で工藤勇一先生から学んだこと
西川 幹之佑〔著〕



これは現代の「ヘレン・ケラー物語」だ！
名門家系に生まれたのにADHDにASD傾向、学習障がいという3重苦で幼稚園すら二時間で中退した著者。小学校では周囲とトラブルを起こし、教室を飛び出す毎日を送り、やがて「死にたい」という衝動にとらわれるようになる。そんな著者が変わったきっかけは、千代田区立麹町中学校に入学し工藤勇一氏に出会ったことだった。

■四六判・256頁
■定価:1,760円(本体1,600円+税)

メディアリテラシー

吟味思考(クリティカルシンキング)を育む
坂本 旬・山脇 岳志〔編著〕



アカデミアとジャーナリズムの専門家が執筆
理論と実践をカバーするメディアリテラシー
入門決定版！

教育者、学生、メディア関係者必見！！
「1億総メディア社会」を生き抜くため、今、求められているスキルを育む一冊。

メディア経営から、SNS分析、デジタルシフト
シフトにいたるまで、当代の専門家33人が集結。
学校での実践も10例掲載。

■A5判・396頁
■定価:2,750円(本体2,500円+税)

新時代のスクールカウンセラー入門

松尾 直博〔著〕



新たな時代に求められるスクールカウンセラーの基本を1冊にまとめた新定版解説。
本書ではチーム学校におけるスクールカウンセラーの基礎から最新の動向までわかりやすく解説。「いじめ」「不登校」「発達障害」を仮想事例とともに詳説するほか、児童虐待、性的マイノリティといったテーマも網羅。現役スクールカウンセラーやスクールカウンセラーを志望する心理士・学生、学校管理職、教育相談コーディネーター・生徒指導主事など教職員も必読の書。

■A5判・272頁
■定価:2,420円(本体2,200円+税)

子どもへの性暴力は防げる！

加害者治療から見た真実
福井 裕輝〔著〕



被害者を生まないためには
加害者をなくすしかない
保育所・幼稚園・学校・児童養護施設・塾…あらゆる場面で子どもを被害者にならないため加害者治療に携わってきた精神科医が子どもへの性的嗜好から加害の傾向・対策まで徹底解説します。教育現場で使用されている、著者監修による加害の危険度を調べる自己チェックシートも掲載。2022年4月に施行された「教員による児童生徒性暴力防止法」対応。

■四六判・176頁
■定価:1,980円(本体1,800円+税)



時事通信出版局

〒104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル8F ●Tel.03-5565-2155 ●Fax.03-5565-2168 ●https://bookpub.jiji.com



教育学関係学術図書のご案内

価格は税込。

アメリカ教育長職の役割と職能開発
八尾坂修編著 3300円

地方学力テストの歴史—47都道府県の戦後史—
北野秋男著 7700円

近現代日本教員史研究
船寄俊雄・近現代日本教員史研究会編著 4950円

岡倉由三郎と近代日本
平田諭治著 12100円

書くことの指導における相手意識の研究
森田香緒里著 8800円

コミュニティ・スクールの全貌
佐藤晴雄編著 4400円

日本学術振興会の設立に関する研究
山中千尋著 11000円

ドイツの学力調査と授業のクオリティマネジメント
原田信之著 2750円

海軍飛行予科練習生の研究
白岩伸也著 7700円

義務教育段階における学習権保障法制の変容に関する研究
牛 玄著 5500円

米国社会科成立期におけるシティズンシップ教育の変容
斉藤仁一朗著 9900円

ウイネトカ・プランにおける教職大学院の成立過程
宮野 尚著 8250円

子どもの権利をまもるスクールロイヤー
松原信継・間宮静香・伊藤健治編著 2750円

ジェームズ・カマーの学校開発プログラム研究
藤岡恭子著 9900円

奇跡の学校—コミュニティ・スクールの可能性—
小西哲也・中村正則編著 1650円

現代キャリア教育システムの日仏比較研究
京免徹雄著 8250円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729 FAX 03-3291-5757

風 間 書 房

(URL) <https://www.kazamashobo.co.jp>
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp

主権者を育てる社会科の授業
—社会と出会う・社会を知る・社会を生きる—

脇坂 圭悟・佐藤 学 著 (新刊)

四六判 並製 192 頁 予価 2,090 円

探究モードへの挑戦

田村 学・佐藤 真久 編著
合田 哲雄・浅野 大介・田淵 六郎・白井 俊 著

A 5 判 並製 280 頁 定価 3,300 円



若手先生の若手先生による
子どものための教育マネジメント

杉本 敬之・村松 秀憲 著 (新刊)

A 5 判 並製 160 頁 予価 2,200 円

DX時代の人づくりと学び

降旗 信一・金馬 国晴・
加納 寛子・佐々木 豊志 編著

A 5 判 並製 160 頁 定価 2,200 円



社会教育・生涯学習入門
—誰ひとり置き去りにしない未来へ—

二ノ宮リムさち・朝岡 幸彦 編著

A 5 判 並製 160 頁 定価 2,200 円



ビジュアル博物館学 Basic
〈ミュージアムABCシリーズ〉

水嶋 英治・高橋 修・山下 治子 編著

B 5 判 並製 168 頁 定価 2,530 円



「人間」と「言葉」を
洞察する出版社



人言洞〈NingenDo LLC〉 〒234-0052 神奈川県横浜市港南区笹下 6-5-3

mail info@ningendo.net website <https://www.ningendo.net>

tel 045 (352) 8675 fax 045 (352) 8685

エッセンスシリーズ

The Essentials Series

教職課程におけるテキストとして幅広くご活用頂いております。

好評
発売中

教育制度エッセンス

— 多様性の中で制度原理を考えるために —

B5判 298頁 定価 2,200円+税

監修/元兼 正浩(九州大学大学院教授)

編者/九州大学教育法制+社会教育研究室
韓国公州大学校 師範大学教育学科

教育課程エッセンス

— 新学習指導要領を読み解くために —

B5判 196頁 定価 1,900円+税

監修/元兼 正浩(九州大学大学院教授)

著者/九州大学大学院教育法制研究室

最新版 教育法規エッセンス

— 教職を志す人のために —

B5判 128頁 定価 1,900円+税

監修/元兼 正浩(九州大学大学院教授)

著者/九州大学大学院教育法制研究室

総合版 特別活動エッセンス

— 望ましい人間関係づくりのために —

B5判 152頁 定価 2,000円+税

監修/元兼 正浩(九州大学大学院教授)

著者/九州大学大学院教育法制研究室

子ども論エッセンス

— 教育の原点を求めて — へすべての子どもに権利・人権を保障するため

B5判 126頁 定価 1,900円+税

監修/元兼 正浩(九州大学大学院教授)

著者/九州大学大学院教育法制研究室+哲研究室

教職論エッセンス

— 成長し続けるキャリアデザインのために —

B5判 204頁 定価 1,900円+税

監修/元兼 正浩(九州大学大学院教授)

著者/九州大学大学院教育法制研究室

次世代スクールリーダーのための ケースメソッド入門



A5判 220頁 定価 2,000円+税
日本教育経営学会実践推進委員会 編

学校組織が日常的に直面する21事例(「校長の専門職基準」準拠)を用いて、スクールリーダーとしての意思決定を疑似体験し、経営判断能力を育成できるケース事例集です。回答例の他に、日本教育経営学会実践推進委員会によるコメントで、決断のための視野を広げます。キーワード解説やコラムも掲載し、自己啓発書としても活用できます。

次世代スクールリーダーのための 「校長の専門職基準」



A5判 248頁 定価 2,000円+税
日本教育経営学会実践推進委員会 編

校長職が専門職であるためには、求められる専門的力量的内容を明確にし、資格・養成・研修等の制度を確立する必要があります。([2009年版]ははじめにより)第I期~第III期実践推進委員会の手による日本教育経営学会「校長の専門職基準」の解体新書。



専門職としての校長の力量形成

A5判 約300頁 定価 3,500円+税

牛渡 淳・元兼 正浩 編

日本教育経営学会が2009年に作成した「校長の専門職基準」を踏まえて、新たなスクールリーダー教育の可能性を理論的・実証的に探る。

第I部「専門職としての校長職の検討」、第II部「スクールリーダーとしての力量開発」、第III部「校長の力量形成環境の整備」の3部構成。

花書院
図書出版

〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金2丁目9番2号
TEL.092-526-0287 FAX.092-524-4411

<http://www.hanashoin.com/>

コロナ禍の学校で
「何が起こり、
どう変わったのか」

現場のリアリティから未来の教育を描く

細田眞由美編 佐藤博志編著 朝倉雅史著

A5・並製・168頁・1760円



コロナ禍の学校で「何が起こり、どう変わったのか」

—現場のリアリティから未来の教育を描く—

細田眞由美編 佐藤博志編著 朝倉雅史著

A5・並製・168頁・1760円

コロナ・パンデミックによる学校教育への影響について、さいたま市の教育委員会・小中高等学校の事例調査や教師や校長へのインタビューを通じてこのままでは「自律的に学ぶ子どもたちが十分に育っていない」ことを明らかにし、今後の新たな学校の組織的展開を描く。

カンボジア
「クルーチャタン」の時代

千田沙也加著 A5・272頁・4950円



カンボジア「クルー・チャタン」の時代

千田沙也加著 A5・272頁・4950円

ポル・ポト政権の崩壊後に教育を担った教員資格を持たない教師「クルーチャタン」が経験した「生きられた歴史」を明らかにし、懸命に培った創造性豊かな教育実践の熱情が伝わる労作。

オンラインリテラシー時代と読解リテラシーの葛藤

福田誠治著 A5・168頁・1980円

新型コロナウイルス感染症が蔓延しそのパンデミック対応で急速に浸透した学校教育のデジタル化による新たに生じた教育・学力格差の克服には何が必要かを問う書。

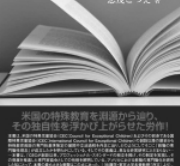
オンラインリテラシーと
読解リテラシーの葛藤
—デジタル時代の新しい学び—

福田誠治著



米国の特殊教育における
教職の専門職性理念の
成立過程

志茂こづえ著 A5・312頁・4730円



米国の特殊教育における教職の専門職性理念の成立過程

志茂こづえ著 A5・312頁・4730円

米国国際特異児童協会（後の特異児童協会）創設以降の特殊教育の専門性基準策定の展開と立法過程を丹念に辿り、専門職性理念の誕生を歴史的に紐解く労作。

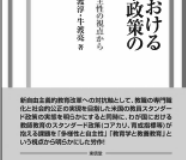
教師教育におけるスタンダード政策の再検討

牛渡淳・牛渡亮著 A5・248頁・3740円

教職専門職化と社会的公正を目指した米国の教員スタンダード政策の実態を明らかにし、日本における教師教育政策が抱える課題を多様性と自主性と教育学と教養教育の視点から明らかにした労作！

教師教育におけるスタンダード政策の再検討

牛渡淳・牛渡亮著



「学習成果」可視化と
達成度評価
その現状・課題・展望

早田幸政編著 大学基準協会監修 A5・424頁・4180円



「学習成果」可視化と達成度評価

早田幸政編著 大学基準協会監修 A5・424頁・4180円

大学での学びが多様化している今、学習成果をどのように評価し、可視化できるか。「達成度評価」のあり方に関する調査研究を分析し、内部質保証システムの有効性とグローバルに通用する多様な人材育成のための具体的な提言書。

現代アメリカ貧困地域の市民性教育改革

古田雄一著 A5・312頁・4620円

米国でも貧困地域の子どもへの市民性教育が排除されている。本書は、様々な学校と地域住民や支援団体との連携とその実践を取り上げ、市民性教育を展開する課題を持つ日本へ示唆を与える。

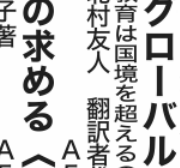
現代アメリカ貧困地域の市民性教育改革

古田雄一著



武藤浩子著

A5・二二四頁・三五一〇円



国立大学システム

A5・二九六頁・三九六〇円

過疎地の特性を活かす創造的教育
村田翼夫・山口満編著 A5・一六八頁・一九八〇円
人生100年時代に「学び直し」を問う
今津孝次郎・加藤潤編著 A5・二四八頁・二九七〇円
米国のシカゴの市民性教育
久保園梓著 A5・二四〇頁・四七三〇円
オープン・エデュケーションの本流
橋高佳恵著 A5・二四〇頁・四七三〇円
戦後日本の大学の近未来
土持ゲリー法一著 A5・二七二頁・三五一〇円
教育グローバル化のダイナミズム
「なぜ教育は国境を超えるのか」ジョエル・スプリング著
監訳 北村友人 翻訳者代表 山田雄司・鈴木耕平
A5・二六〇頁・三九六〇円

女性学長はどうすれば増えるか？

高橋裕子・河野銀子編著 A5・168頁・1980円

日本の女性学長の割合は13%と世界的に低い。女性学長就任を阻む構造や女性リーダーシップを明らかにし、現女性学長らの連続シンポジウムの講演録を纏める。

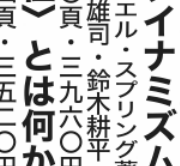
女性学長はどうすれば増えるか？

高橋裕子・河野銀子編著



大学職員
人事異動制度
の実証的研究

木村弘志著 A5・296頁・4620円



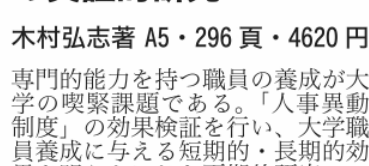
大学職員人事異動制度の実証的研究

木村弘志著 A5・296頁・4620円

専門的能力を持つ職員の養成が大学の喫緊課題である。「人事異動制度」の効果検証を行い、大学職員養成に与える短期的・長期的効果を明らかにした画期的研究。

大学職員人事異動制度の実証的研究

木村弘志著



日本の大学界にジェンダー平等を！

女性学長は
どうすれば
増えるか？



東信堂
直接注文
お問い合わせ

アマゾン
楽天
ブックス
honto

東信堂

〒113-0023 東京都文京区向丘 1-20-6
HP <http://www.toshindo-pub.com>
☎ 03-3818-5521 ☎ 03-3818-5514
✉ toshindo_onlineorder1985@gmail.com
✉ tk203444@fsinet.or.jp (代表)

* 博論書籍化、教科書等の出版相談は代表メールまで！

「文部科学省」編著の書籍



■ 生徒指導提要 令和4年12月改訂〈コンパクト版・関連法令付録〉

最新刊

文部科学省 著／A5判／336頁／定価935円（本体850円＋税）／ISBN978-4-86371-653-7

生徒指導に関する学校、教職員に向けた文部科学省による基本的指導書「生徒指導提要」が、社会情勢の変化や今日の課題を踏まえ12年振りに大幅改定された。「いじめ防止対策推進法」「自殺対策基本法」「教育機会確保法」等、生徒指導を進める上で欠くことのできない主要法令も付録。研修、会議等に携行しやすいコンパクトサイズ（A5判）で、生徒指導担当教員をはじめ全教員が必携の1冊。



■ 特別支援教育における交流及び共同学習の推進 ～学校経営の視点から～

最新刊

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 著／全国特別支援教育推進連盟 編集
A4判／256頁／定価2,420円（本体2,200円＋税）／ISBN978-4-86371-651-3

全国特別支援教育推進連盟が文部科学省から委託を受けた調査研究報告書に、あらたに加筆、書籍化した。第1部では、学校経営の視点で交流及び共同学習の意義や今後の在り方を検討するほか、実践校の校長からの「提言」を掲載。第2部では、教育委員会を対象としたアンケートから、障害のある子供の居住地校交流の実態を明らかにする。また、先進的な取組を行っている21校の実践を紹介。



■ 学校の「危機管理マニュアル」等の評価・見直しガイドライン

＋学校安全推進のための教職員向け研修・訓練実践事例集

文部科学省総合教育政策局 編著／A4判／カラー262頁／定価1,980円（本体1,800円＋税）／ISBN978-4-86371-611-7

自然災害や火災、突発的な事件、事故などから児童生徒の生命を守り、安全を確保するために、学校の「危機管理マニュアル」は常に見直しと改善、そして実践的な研修や訓練が求められる。そのための指針として文部科学省が令和3年に発表したガイドラインと実践事例集を一冊にまとめて書籍化。



■ 障害のある子供の教育支援の手引 ～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向け～

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 著
A4判／480頁／定価1,980円（本体1,800円＋税）／ISBN978-4-86371-613-1

文部科学省が令和3年6月に発表した「障害のある子供の教育支援の手引」と「小学校等における医療的ケア実施支援資料」をまとめて書籍化。障害種ごとに「教育的ニーズ」を詳細に記し、就学相談などで必要な判断・支援を行うときの基本的な考え方を示す。さらに、医療的ケア児の受け入れにあたって理解しておくべきことも網羅。

新刊・好評既刊



■ 包摂の学級経営 ～若手教師は現場で主体的に育っていく～

中村映子 著／A5判／336頁／定価2,860円（本体2,600円＋税）／ISBN978-4-86371-652-0

長年教師を務めた著者が、公立小学校の教職経験4～10年の若手教師の学級に密着し、アクションリサーチの手法を用いて、教師がどのように学級経営を改善していき、どのような成長を遂げていくか、その過程を実証した一冊。学級の観察や教師たちへのインタビューなどを通して、現場の「声」をていねいに聴き、教師が児童間の関係を理解することによって「包摂の学級経営」が可能になることを明らかにした。



■ 私たちが求めるインクルーシブ教育への挑戦 ～小学校長の教育実践の試みを通して～

波邊健治 監修／高橋浩平 著／B5判／156頁／定価2,200円（本体2,000円＋税）／ISBN978-4-86371-650-6

「インクルーシブ教育は通常の学級の変革である」――長年、特別支援教育に携わってきた公立小学校長による、通常の学校におけるインクルーシブ教育の実践。自校の教職員に向けて発信した「たより」をベースに、「インクルーシブ教育とは何か？」というはじめの一步からやさしく解説。読者を自然とインクルーシブ教育の世界へいざなう。これからインクルーシブ教育への取組を考えている管理職だけでなく、すべての教職員に読んでほしい一冊。



■ 身近なコトから理解するインクルーシブ社会の障害学入門 一 出雲神話からSDGsまで

水内豊和 著／四六判／236頁／定価1,650円（本体1,500円＋税）／ISBN978-4-86371-649-0

障害のある子どもや大人、その家族に寄り添って臨床発達支援をしてきた著者が、マスク、カラオケ、資格、きょうだいなどを切り口に、身近なコトとインクルーシブ社会がどう繋がるかを解説する27講義。興味のあるテーマから読めて、わかりやすく、面白い。巻末には本邦初?!「障害や疾病に関連する記念日リスト」も収録している。



■ Q&Aでわかる 発達障害・知的障害のある子どものSNS利用ガイド

金森克浩 監修／海老沢穂・高松崇・新谷洋介 著／A5判／176頁／定価2,310円（本体2,100円＋税）／ISBN978-4-86371-643-8

発達障害・知的障害のある子のネットやスマホ利用。「使い過ぎによる膨大な請求額」「出会い系」「ゲーム依存」「課金」といった保護者や教員から寄せられる悩みをQ&A形式で解説。SNSとの向き合い方、便利な使い方や障害種ごとに陥りやすいトラブルのパターンと解決法がまとめられている。巻末には、ネットショッピング、パスワード入力などが疑似体験できるWEB上の教材も紹介。トラブルを避けるために使わないのではなく、積極的に活用するためのガイドブック。



ジアース
教育新社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-23 宗保第2ビル
TEL 03-5282-7183 / FAX 03-5282-7892
E-mail info@kyoikushinsha.co.jp
URL https://www.kyoikushinsha.co.jp/



日本教育経営学会創立60周年記念出版

講座 現代の教育経営〈全5巻〉

日本教育経営学会編
●A5判/上製



戦後教育システムの重大な転換期にある1990年代後半以降20年間の教育経営学における諸研究について、日本教育経営学会の研究知見に基づきわかりやすく論じる。学校・家庭・地域における協働が求められるこれからの教育経営に携わる方へ必読のシリーズ。

- 1『現代教育改革と教育経営』（編集委員）浜田博文・勝野正章・山下晃一 定価2970円
- 2『現代の教育課題と教育経営』（編集委員）天笠茂・玉井康之・南部初世 定価3190円
- 3『教育経営学の研究動向』（編集委員）林孝・水本徳明・貞弘斎子 定価2640円
- 4『教育経営における研究と実践』（編集委員）牛渡淳・佐古秀一・曾余田浩史 定価2750円
- 5『教育経営ハンドブック』（編集委員）北神正行・本園愛実・元兼正浩 定価2200円

教育裁判事例集

一裁判が投げかける
学校経営・教育行政へのメッセージ

佐々木幸寿 著

教員、社会、経営、事故事件、保護者、外国人、生徒指導、学務の分野61の裁判事例を紹介。

定価
2750円



未来の教育を創る教職教養指針 5 教育の法制度と経営

勝野正章 編著
山崎準二・高野和子 編集代表

教育行政及び経営の責務、平等を実現する教育と教育法制を基礎・基本から考える。

定価
2000円



ユネスコ・教育を再考する ーグローバル時代の参照軸

日本教師教育学会第10期国際研究交流部
百合田真樹人・矢野博之 編訳著

香川奈緒美・金井香里・森久佳・荒巻恵子・深見俊崇 訳著

「Rethinking Education」待望の翻訳。ユネスコの教育政策実践の基盤となる議論を読み解く。

〒153-0064 東京都目黒区下目黒3-6-1
<http://www.gakubunsha.com>

定価
2000円



学校ガバナンス改革と 危機に立つ「教職の専門性」

浜田博文 編著

教職の専門性が置かれている危機的状況の内実を解剖。社会的装置のあり方を追究。

定価
3850円



学文社

Tel 03-3715-1501(代) Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

日常でよく使われる用語を収録し、
多くの用語を示した表記辞典の決定版

用字用語 新表記 辞典

新訂五版



天沼 寧・加藤彰彦・鈴木仁也【編】

B6判・864ページ 並製・ケース入り 定価2,420円(本体2,200円+税10%)

- 国語表記の目安となる内閣告示、通知・通達及び文部科学省資料等に基づいて編集した、現代日本語を書くための表記辞典の決定版です。
- 見出し語には、現代表記に必要な約2万6千語を収録し、それぞれに豊富な用例を掲げ、さらに参考表記、言い換え、公用文の表記等を示しました。特に公用文の表記については注釈等も充実、実務の必携書です。

令和5年4月1日施行の条文に
完全対応！

【逐条解説】 地方教育行政の 組織及び運営に 関する法律

第五次新訂



木田 宏【著】 教育行政研究会【編著】

A5判・760ページ 定価4,950円(本体4,500円+税10%)

- 我が国唯一の「地教行法」の逐条解説書！教育行政関係者必携の実務書。
- 「地教行法」条文解説の決定版！本書で「地教行法」の正確な解釈と運用がよくわかる。
- 第五次新訂では、平成29年改正、平成30年・令和元年改正、令和5年4月1日施行の教職員研修制度の改正や地方公務員法改正の改正に対応！

商品の詳細、試し読み、お申込みはコチラ



第一法規



検索

CLICK!



第一法規

東京都港区南青山2-11-17 〒107-8560
<https://www.daiichihoki.co.jp>

ご注文はWEBからも承ります。

☎ Tel. 0120-203-694

☎ Fax. 0120-302-640

日本教育経営学会第 63 回大会プログラム

発行日：2023 年 4 月 27 日

編集：日本教育経営学会第 63 回大会準備委員会

〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学人間系学系棟

日本教育経営学会第 63 回大会準備委員会事務局

委員長：浜田博文（筑波大学）

委 員：佐藤博志（筑波大学）

大谷 奨（筑波大学）

藤井穂高（筑波大学）

朝倉雅史（筑波大学）

古田雄一（筑波大学）